所属：弓削商船高等専門学校　創造工学科

研究タイトル：

教育現場での問題解決のための実証実験

氏名：	要　弥由美／KANAME Yayumi	E-mail：	kaname@yuge.ac.jp
職名：	准教授	学位：	修士　（文学）
所属学会・協会：	日本リメディアル教育学会・専門日本語教育学会		

キーワード：	ニーズ分析・発達・言語技術
技術相談 提供可能技術：	・構造方程式モデリング ・因子分析 ・質問紙作成

研究内容：

研究の概要

研究ができる教育者というスタンスで、教育現場での問題解決のための実証研究を行ってきた。研究成果は、現場の課題を解決するためのものと、自身の研究を理解してもらうための研究手法の啓発活動の 2 つに分けられる。

調査・分析を主とした研究

当初は、外国人日本語学習者を対象とした研究を行っており、外国人と日本人とのコミュニケーションのための生活知識を明らかにし、それに基づくテキストの作成を提案した。しかし、その後、テキストの選択に際しては、それを使用する教員の意識が大きく影響すると考え、教員のビリーフを調査した。一方で、構造シラバスで学習している日本語学校の外国人学生の試験成績の発達を分析し、カリキュラム改善への提言を行った。

教育実践に基づく研究

2009 年から、日本人学生への日本語表現法を担当し、言語表現指導の効果を調査したうえで、表現指導に際しての注意点や、執筆指導以外の課題を明らかにした。また、資料読解時の学生が抱える問題点として、語の役割や使用規則についての知識不足の指摘や、文章に向う態度形成の必要性を述べた。その他、学生の好奇心が学力向上に結び付くことを示した実践、また、課題を現場で共有することを主眼とした発表も行った。

研究手法の啓発活動

研究を始めたころ、統計的手法を用いて研究していたが、日本語教育に携わる人の多くの人が統計的手法を理解していないように感じられることが多かった。そのため、統計的手法の理解を目的としたワークショップを行うようになった。それが、「統計は怖くない！」と題したラウンドテーブルとその WEB 報告書である。また、その結果、統計的手法を用いた研究を取り入れたいという研究者からの誘いがあり、科研に連携研究者として参加した。

提供可能な設備・機器：

名称・型番（メーカー）	